

仙北市議会定例会

平成18年第6回仙北市議会定例会が9月6日から27日までの22日間にわたり開会されました。提出された案件は、報告6件、条例案4件、補正予算案10件、決算認定3件、その他5件の計28件で、全ての議案が原案どおり可決されました。

この定例会には、市政運営の基本方針となる「仙北市総合計画」の基本構想が提案されました。また、議会最終日には「仙北市立角館小学校新築工事請負契約の締結」について追加提案され、それぞれ可決されました。その概要を紹介します。

仙北市総合計画

総合計画は、合併協議により策定された「新市建設計画」の基本理念を継承しつつ、市の目指すべき将来像を明らかにし、それを実現するために、より発展的、具体的なまちづくりの方針を定めたもので、市議会をはじめ、市民の皆様からのご意見やアンケート調査の結果、地域審議会の答申などを踏まえ策定いたしました。

計画は、18年度から27年度までの計画期間10年の仙北市の将来像等を定めた「基本構想」及び施策の基本方向等を定めた「基本計画」と3年の計画期間で毎年度見直しを行い、具体的な事業内容を表している「実施計画」の3部門で構成されています。

仙北市の将来像

～観光産業を活かした
北東北の交流拠点都市をめざして～

本市は、北東北3県のほぼ中央に位置し、3県の県庁所在地である秋田市、盛岡市、青森市が形作るトライアングルの軸上に位置しています。

この軸上の都市は、人・もの・情報の活発な交流と連携が促進される地域連携軸を形成しており、本市も秋田市や盛岡市、宮古市と並ぶ拠点となる地域として位置づけられます。

そして、日本一の水深を誇る田沢湖、全国的に有名な温泉・秘湯の数々、いにしへの面影を今に伝える武家屋敷の町並み、「紙風船上げ」や「火振りかまくら」に代表される多彩な小正月行事など、観光客を引き付ける資源の豊富さは、他に類を見ません。

また、交通アクセスの面でも極めて優位な位置にあり、角館駅と田沢湖駅という秋田新幹線の二つの駅があり、東京からの所要時間は約3時間、仙台市からは1時間強という短時間でアクセスすることができるほか、秋田空港から約1時間、東北自動車道にも約1時間の距離にあり、花巻空港や大館能代空港、秋田自動車道にも比較的短時間でアクセスできるなど、秋田の玄関口にとどまることなく、北東北の玄関口となることも可能な立地条件を備えています。

こうした数々の優れた資源と恵まれた立地を活かすとともに、観光産業を農林業や商工業と並んだ大きな軸として捉え、それぞれの産業の有機的な連携を図り、ここに暮らす人々とここを訪れる人々がお互いの交流を深め、心身を癒すことのできる「まち」をめざし、本市の将来像を「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市をめざして」とするものです。

まちづくりの基本理念

次の4つの考え方を基本としてまちづくりを進めていきます。

1 観光産業を活かしたまちづくり

仙北市は、豊富な観光資源と恵まれた自然景観にあふれたまちです。観光産業と特色のある農林業や多様な商工業の連携により、1千万人の観光客(「デミリオン計画」)が訪れるまちをめざします。

2 歴史と文化が息づくまちづくり

仙北市は、城下町として栄えた角館地区を中心に、武家屋敷をはじめとする歴史的遺産や文化財に恵まれたまちです。先人が残してきた歴史と伝統を大切に、後世に伝えるまちをめざします。

3 ふるさとを愛し誇れる人づくり

仙北市は、長い年月を経て培われてきたふるさとを誇りに思うことのできるまちです。そして地域を守り、さらに発展させていくために、ふるさとを愛する人づくり、ふるさとを誇れる人づくりに努めます。

4 誰もが安心して暮らせるまちづくり

仙北市は、自分たちの住む地域とそこに暮らす人々を大切にすまちです。福祉・医療体制の充実を図るとともに、生活基盤や防犯・防災体制を整備し、誰もが安心して暮らせるまちをめざします。